# 若竹通信

第66号
平成29年５月31日発行
徳島県立新野高等学校

新野高等学校長
山　村　　晃

## ご　挨　拶

本校２年目、校長の 山村　晃 です。日頃は、本校教育のために、さまざまなご支援を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。本年度もどうかよろしくお願いいたします。

さて、新学期が始まり、早や２か月がたちました。３年次生は、最高学年としての自覚を持って、自分の進路目標を実現するための勉強をスタートさせています。また、最後の大会となる県高校総体も目前に迫り、日々の練習も一段と熱を帯びているようです。２年次生は、１年次の時とは意識も変わり、生徒会活動や部活動の中心となる日に備える自覚が芽生えつつあります。四月に入学した新入生も本校の生活にすっかり馴染んできたように思います。早速、朝のあいさつ運動にも大勢加わり、学業に対して意欲的に、また部活動にも先輩達と一緒に汗を流しながら取り組んでいます。

本校は、平成15年に総合学科高校としてリニューアルし、何度か系列の見直しを行いながら、現在「自然科学系列」・「人文芸術系列」・「アグリクリエイト系列」・「情報ビジネス系列」の４つの系列で教育活動を展開しています。そこでは、生徒の個性・能力の伸長を図りながら確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に根ざし地域に貢献する人材育成を使命として教育活動に励んでいます。

また、生徒の興味・関心や進路希望に対応して多様な科目の中から選択する総合学科の特色を生かし、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深められるよう、「産業社会と人間」の授業や各種資格試験へのチャレンジを行うなど、教育内容の一層の充実に努めているところです。

ご存じの方も多いと思いますが、本校生徒は地域に貢献できるボランティア活動にも意欲的に取り組んでいます。例えば、「クリーンウォークラリー」や「イシマササユリの保護活動」、さらに「花いっぱい運動」など長年継続して取り組むことで、地域からも高い評価を得ており、本校の就職・進学の実績アップにつながっています。郷土を愛し、新野高校発展のためのこういった生徒達の自主的な取り組みに対し、私は校長として感謝の気持ちでいっぱいです。そして地域に愛され、地域に信頼される学校づくりが大切だと考えて、実践しているところです。すべての教職員が一丸となって本校生徒の教育に力を尽くしていきますので、今後とも皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 入学式

4月10日(月)

本校体育館において、平成29年度入学式が行われました。山村晃校長より、80名の生徒が入学を許可されました。新入生たちは、喜びと期待を胸に本校での高校生活をスタートさせました。

5月6日(金)

## 「緑のリサイクルモデル」でストップ地球温暖化!

### ～インディECOキャンペーン～

本校の「緑のリサイクル・ソーシャル・エコ・プロジェクト」は資源循環型・低炭素社会構築に向けた「緑のリサイクルモデル」に取り組んでいます。このたび、徳島インディゴソックス球団の協力を得て、５月６日(金)、JAアグリあなんスタジアムにおいて、地球温暖化防止キャンペーンを行いました。刈草堆肥「もったいない２号」とヒマワリ・アサガオの種セットを入場者に配布したり、スタジアムから観客に向けて温暖化防止を呼びかけたりしました。